「鳥取暮らし」始めませんか

～子育て世代に人気の智頭町で「森のようちえん」がひと役～

自然の中でこそ育まれる子どもの「育ちの芽」

「田舎暮らし」というと、定年後のゆったりとした生活を求めるシニア世代の移住が主流でしたが、近年は子育て世代にシフトしつつあるそうです。「子育て王国とっとり」を掲げる鳥取県では、豊かな自然や住民の絆を生かし、子育てを地域全体でサポート。県外からの移住者も増えています。

例えば、同県の東南に位置する智頭（ちづ）町。人口8000人程度、総面積の9割以上が山林という文字通りの田舎町ですが、とりわけ子育て世代の移住先として人気の地域でもあります。移住の決め手の一つになっているのは、屋外での自然体験を主とする幼児教育活動「森のようちえん」。同町では「智頭町森のようちえんまるたんぼう」が、美しい自然を学びやに活動していました。

同行させてもらったのは、保育士による野外保育「まるたんぼう」の姉妹クラスで、スタッフと保護者が一体となって活動する共同保育「すぎぼっくり」。「決められたプログラムをこなすのではなく、基本は森の中の散歩。道無き道を行くこともありますよ」とスタッフの熊谷京子さんは事もなげに言いますが、実際に子どもたちは草木がうっそうと茂る坂道さえ助けを求めることなく、自力で登っていきます。スタッフや保護者は見守るのみ。熊谷さんいわく、「自然の中で子ども自身が考えて行動しようとする『育ちの芽』を信じて待つことで、親も一緒に育ち合うんです」

写真上／低木に乗って遊ぶ子どもたち。同下／島田さんと一二三（ひふみ）くん（4歳）と至くん（2歳）。実家は尾張旭市とか。同左／「すぎぼっくり」で最初に行われる「朝の会」の様子

園児を通わせているのはほとんどが移住者

聞けば、同園に子どもを通わせているほとんどが移住者とのこと。自家製天然酵母パンの店「タルマーリー」を営む渡邉格（いたる）さん・麻里子さん夫妻は、同園を知ったことがきっかけで岡山県から同町へ移り住み、「子どもが日々たくましくなっています」と目を細めます。また、現在2人の愛息を通わせているのは島田理笑（りえ）さん。ご主人の起業を機に愛知県一宮市から一家で移住してきたそうです。

今回訪れたのは8月の末。子どもたちは夏の終わりに待ったをかけるように、森を出る時間ぎりぎりまで、のびのびと遊んでいました。四季の移ろいも暑さも寒さも、変化に富む自然豊かな同町では、子どもの心身をたくましく、しなやかに育んでくれます。

写真右／渡邉さん夫妻。同左／店は、閉園した保育園を改装してオープン。カフェスペースもある

チェック！ 9月26日（土）に現地で入園説明会

29人の園児が在籍する同園が、3～5歳児を対象にした野外保育「まるたんぼう」の平成28年度の入園説明会を開催します。場所は智頭町観光協会（智頭2067・1）2階で、時間は午前10時～正午。当日は願書も配布。定員は30人程度。詳しくは、左記電話またはEメール（morino@marutanbou.org）で気軽に問い合わせを。HP（http://marutanbou.org/）も参照して。問／同園の山中さん（電話0858・71・0033）

アクセス ●電車…JR名古屋→（新幹線）→JR姫路→（スーパーはくと）→JR智頭（約2時間50分）●車…一宮IC→（名神高速→中国道）→佐用JCT→鳥取道（無料）で智頭IC下車（約320㎞）

コラム 鳥取県が子育て世代の移住先として人気の理由

◎育児に安心感を与えてくれる

昨年「子育て王国とっとり条例」を制定するなど、以前から育児がしやすい環境づくりに積極的な鳥取県。人口10万人当たりで、交通事故発生件数が全国最少（2012年警視庁交通統計）、小児科専門医数全国1位（2012年厚生労働省医師・歯科医師・薬剤師調査）、産婦人科専門医数全国2位（同）など、子育て世代にうれしい統計結果も出ています。

交通事故発生件数が人口10万人当たり全国最少

小児科専門医数が同全国1位

産婦人科専門医数が同全国2位

◎移住者によるネットワークが頼もしい

鳥取県は、移住者による移住者のためのネットワークも充実しています。鳥取県東部（鳥取市、岩美町、八頭町、智頭町、若桜町）に移住してきた人で結成したのは「鳥取ふるさとUI（友愛）会」。「鳥取への移住となると気になるのが仕事のことでしょうが、県や市町村もサポートしてくれますし、私たちも経験を生かしてバックアップしますよ」と、福山裕正会長は話します。

福山裕正さんは大阪からUターン

問い合わせ（ふるさと鳥取県産業・観光センター（中区栄4・1・1 中日ビル4階） 電話052・262・5411 http://www.pref.tottori.lg.jp/nagoya/）

中日新聞社発行「ショッパー」（2015年9月17日号）